

霊峰「狗留孫山」登山記（文化財保護関係）

法華寺の満開の桜に見送られて、いざ「奥の院」へ向けて出発しました。登山道は地元の、山登り愛好家の皆さんのお陰で、きれい整備されています。山に入ると、うぐいす等の野鳥の鳴き声や、稜線をわたるさわやかな風に癒されながら登ると御詠歌岩が見えてきました。この岩には「八重かすみ 峰よりかけて くるそのの 仏のちかい たのもしきかな」と書いてあります。



そこから、少し登ると「奥の院」へ到着しました。ゆっくり歩いて約1時間の行程でした。



しばらく休憩の後、「穴観音」に向けて出発です。

「穴観音」は、30年近く訪れた人がなく、有志により探していましたが、2012年に偶然発見されました。

その後登山道や周辺の整備、案内板の設置等により、今では「奥の院」から20分くらいで行くことができました。



小休憩を兼ねて周辺を散策後、頂上へ向けて出発しました。
2度の登り下りの後、最後の登りにかかりましたが、意外と急で息が切れてしまいました。「穴観音」から30分余りで頂上に着きました。
今までの苦しさが、すう〜と嘘のようになくなり、達成感と清々しさでいっぱいになりました。これが、山登りの魅力でしょうね。



頂上からは、出雲地域が一望でき、遠くは防府の大平山、向島、矢筈ヶ岳、東の方向に目をやると、石ヶ岳や四熊ヶ岳まで見る事ができました。





山頂に約40分くらい滞在し、下山です。
しばらく下山していると、「奥の院」のすぐ裏あたりに出てきます。
そこには「悪人戒め岩」という面白い岩があり、狭い岩の隙間を通れるか否か
というものです。結構ドキドキしますよ。



「悪人戒め岩」から「奥の院」に下りず、反対のシダの繁る道に入れば、巨岩に掘られた「観音磨崖仏」があり、それを見ながらゆっくり降りていきました。ここには33体の「観音磨崖仏」があり、それぞれ表情が違い、顔かたちを見るのも楽しみです。昔は、たくさんの参拝者で賑わっていたようです。



約4時間半で、無事下山しました。この、狗留孫山は地元では「庄方の観音山」として親しまれています。登山道には、ロープも張ってあり、案内板も立ててありますので、是非皆さんも登ってみてください。

狗留孫山は文化財の宝庫です、みなさん大切にしましょう。

